

## 《在鳴門》2012年1月 第76期

### 1、鳴門で新年祝い



鳴門どんど焼き



徳島県日中友好協会春節会



徳島大学留学生春節パーティー

1月8日の午前、鳴門岡崎海岸で新年祝いのどんど焼きが行われました。市民の方々が持ち寄った門松としめ縄などを高さが2メートルくらいまで積み上げました。持ち寄られた門松やしめ縄などのてっぺんには、青い松東が置かれていました。どんど焼き点火式の参加者は8人であり、中に大人と子供がおり、私とドイツからの交流員ロバートさんも招かれました。各人はたいまつを持って、一週回ってから、点火しました。十数秒後、火がどんどんと燃えてきました。上方の松東は熱風の中にぶらぶらと舞っていました。傍で立つと、頬が熱く感じました。皆、みかんを竿で串刺さしたものを薪火の上で焼いていました。焼いたみかんを食べたら一年中元気になるということです。私もみかんを焼いて食べました。その後、ロバートさんと私はテレビ鳴門の現場取材を受けて、感想を言いました。

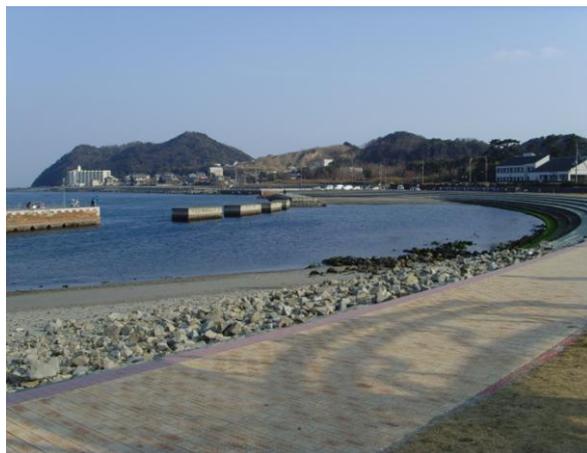
1月22日は中国旧暦の兎年の大晦日であり、23日は龍年の正月一日です。中国社会は旧暦の新年祝いを行います。中国の新年は春節と言います。春節時、人々は暫く悩みや憂いをすべて忘れて、熱狂的に爆竹を鳴らし、美酒と肴で楽しみます。もし雪が降ったら、子供たちは雪ダルマを作ったり、雪玉で遊んだりします。春節、役所や企業や会社や工場や学校は、ほとんど七連休になります。大晦日、出稼ぎの人はどんな遠くても、遥々家に帰ります。だから、大晦日前の2、3日の間、数億万人は汽車や電車やバスに乗り込み、大変混雑な帰省時期に入りました。各家庭は、家の門に春聯（春節を祝う言葉を書いた赤い紙）を貼り、戸に「福」の紙を貼り、忙しく春節料理を作ります。夕方、家の外で爆竹を鳴らし、悩みと憂いを一気に明るい花火と散らされた紙屑とともに晴らします。その後、家族は一緒に食卓を回って食事を始めます。豊富な料理には年を送る水餃子が欠かせません。夜8時、中国中央テレビの春節祝う文芸パーティーという番組を観るのは春節の大きな楽しみです。中国の13億人だけではなく、海外の多くの華僑も番組の中継放送を観るので、世界中で、視聴率が一番高いテレビ番組と言えるでしょう。翌日の正月一日の朝、起きてから先ず爆竹を鳴らして、朝食をすませて、親戚に新年挨拶をするために家から出ます。中学生の時、私は毎年の正月一日、自転車で田舎に住んでいる叔父さんに新年挨拶に行きました。就職して故郷を離れてから、携帯電話を通じてメールで新年挨拶をするようになりました。しかし、新しい服を着て、爆竹を鳴らして、春聯を貼って、子供にお年玉を贈るなどの風習はよく守っています。町の商店街の至る所で赤い提灯を掲げて、住民たちは龍舞と獅子舞をやったり、謎々遊びを行います。

21日～22日の間、私は合計で3回の祝宴に参加しました。21日の昼、徳島日中友好協会が催した宴会、22日の昼、鳴門日中友好協会が催した宴会、22日の晩、徳島大学の中国留学生の新年パーティーに続々参加しました。留学生たちの手作り水餃子を食べて、懐かしい味を感じました。留学生たちは歌ったり、踊ったりして非常ににぎやかでした。夜9時半、宿舎に着くと、北京時間が8時半であり、パソコンをオープンして、インターネットで春節文芸パーティー番組を観ました。忘れられない2012年の春節ですよ。

## 2、鳴門一日散策



小鳴門橋



鳴門岡崎海岸



鳴門妙見山頂



鳴門潮明寺

1月14日、鳴門市観光協会が行ったボランティアガイド養成講座の鳴門市一日観光に参加しました。鳴門駅から市内路線バスに乗って、小鳴門橋を過ぎたところで降りて、散策が始まりました。一番目は潮明寺でした。昔、有名な歌人はここで泊まったことがあります。境内には石碑が立てられています。ガイドの方の紹介で、昔、瀬戸内海には海賊が多くて、旅人は昼間に休み、夜間に船に乗って海を渡るということが分かりました。寺から歩いて10分間程、土佐泊に着きました。その辺は、漁港です。傍に山があります。皆、山裾から険しい階段を登って、20メートル高いところで「小宰相局の墓」を見ました。

山から下りて、海辺で半時間休憩しながら、渡船を待ちました。渡船は無料で、一日中24便です。われわれが乗った船は10数人搭乗できる小型船です。2、3分間後、向こう側の岡崎海岸に到着しました。海沿い道路を歩いて、左側には防波堤であり、右側には綺麗な民宅です。道側である民営ホテルは5階であり、観光季節にはお客さんが常に満員で、事前に予約しなければ宿泊できないそうです。100メートルの先、細長い海浜が見ました。そこは、昔、海水浴場でしたが、波が流されて砂がだんだん少なくなり、一方、海底の石が浜に流れ込んで、結局、1999年浴場を閉じました。岸から海に30メートルくらい離された防波堤は釣りの愛好者にとって良い釣り場です。岸边、トイレのほか、更衣室とシャワー室もあります。休憩の公園には、観音の彫像が立って、観音は海に向かって、漁民たちを見守っているでしょう。

岡崎海岸から南へ行って、悠久な撫養街道に入りました。400年前の江戸幕府時代から、ここはもう繁華街でした。同時に、四国遍路の起点になりました。街道側の百年の和菓子老舗で甘い「鳴門饅頭」を試食させていただきました。その後、私が好きな妙見山に行きました。妙見山は、大きくはないのだが、綺麗に聳えて、緑木が茂り、山道が廻り上がり、山腹にガレ美術館があります。山頂には神社があります。そこから鳴門市街地が眺められます。高い所から眺望することは、私の趣味です。山から下りて、続いて撫養街道に沿って歩き、手前は大道銀天街です。毎日、私は自転車で撫養街道に沿って通勤して、まれに、一身白服のお遍路さんを見えます。古い撫養街道は数百年が経っても、形に大きな変化がありません。日本の伝統文化はよく伝承されていることが分かりました。

### 3、小学校の英語クラス



#### 鳴門板東小学校

板東小学校に招かれて、五年生の英語クラスに参加しました。場所はドイツ館の会場です。生徒は30名程度、私とドイツ交流員ロバートさん、アメリカのALT（英語教師）、当校の教師と一緒にゲスト役を演じました。そのクラスの主題は情景模擬です。外国の観光客は鳴門に来られて、生徒たちは如何にお客さんに美味しい食べ物を提供するかという演劇のようでした。生徒たちは事前に様々な食べ物のカードを作って用意しました。最初、先生は英語の教学ビデオを流しながら、生徒に英会話を教えて練習しました。その後、ゲストは自己紹介をしてから、生徒たちは4組に分かれて、ゲストはそれぞれ一組に配属されました。

学校は五年生から英語の授業を行います。会話は簡単ですが実用的です。例えば：「What do you like?」「Do you like XXX?」などで、生徒たちはさまざまな食べ物の英語の単語を覚えるだけではなく、同時に社交能力を養成するわけです。

### 4、細かいところまで

日本には、至る所で細かいことを重視する理念を感じられます。誰でも日本にいたことがあれば、ごみを分類することをよく知っています。日本では、ごみの分類ほど細くなることはないと感じました。そして、ごみ収集と処理は非常に効率的です。自然環境に優しいので、綺麗な日本はよく守られます。日本社会には、さまざまな細部を重視することがよくうかがえます。例えば、トイレの普通の水洗便器は、蛇口が上部についており、便器を洗うと同時に、手洗いができ、節水かつ便利です。日本には、雨が多く、水不足の国ではなくても、かえって水不足の国よりもよく節水を行っています。スーパーに販売されるソーセージの包装には小さい剥げ口があります。そして、ハサミがなくても手で簡単に包装紙をはぐことができます。ある時、露天市場でコーヒーの紙カップを見れば、巧みに紙を折って取っ手を組み立てていました。そして、手で持っても熱くなく、さらに、カップが丈夫になります。ビールなど飲み物の金属缶でも良いところがあります。缶の開け口の鋭利な金属片が外に引くのではなく、缶内に押すことです。だから、その安全的な仕組みによって、油断して指を切るという事故を防ぐことができます。缶を捨てる時、危険性はありません。

また、日常、室内に入る場合、必ず靴を脱ぐことです。最初、幾分不便だと思いましたが、掃除する時、その良いところを感じました。靴底に泥が付いたままで室内に入る際、靴を脱ぐと、泥を室内に運びこむことなく、清潔を保てます。だから、2、3日間部屋を清掃しなくても大丈夫で、週に一回、電気掃除機を使えばいいだけです。家事の時間をよく省くことになります。小さな個室では、靴を脱ぐことの良さが分かりにくいですが、もし体育館など大きな公共場所では、靴を脱ぐことの良さがよく分かります。広い地面は綺麗で、板の磨耗が軽微で、利用年数が延長することができます。